

(2) 学術情報へのアクセス

○学術情報の処理・提供システムの整備状況、国内外の他大学との協力の状況（B群）

2004年2月に学術情報システムをリブレースし、新たに予約機能、予約図書の到着等の通知機能、利用状況の問い合わせ機能、ドキュメントオーダー（複写・貸借）依頼機能、SDI・アラート機能などのWebサービスを開始した。これらはパソコンの他、携帯電話からもアクセス出来る。

学術情報システムは、リブレース後も改善が続けられ、外部データベースである日外アソシエーツ社のBOOKPLUSへのリンクによる目次・あらすじ情報の参照、日外アソシエーツ社のMAGAZINEPLUSデータベースからの本学図書館目録の参照などの機能を追加している。

隣接する同志社大学総合情報センターと相互利用協定を結んでおり、両大学に所属する者は2大学の図書館に自由に出入り出来、両大学の蔵書を利用することが出来るようになっている。また、同志社大学とは前項に記載した学術情報システムを共用しており、蔵書検索の面でも他大学の図書館であるということを意識せずに利用できる体制となっている。

音楽関係の学部学科を持つ大学の図書館等で構成する音楽図書館協議会（MLAJ）に加盟しており、音楽資料の目録法や分類法の研究、資料の相互利用の推進、レファレンス事例の研究、音楽参考文献の解題、各種所在目録の編纂などに協力して取り組んでいる。

京都府・奈良県・北陸地方の私立大学図書館で構成される私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会に加盟している。協議会加盟図書館の利用者は、協議会が発行する共通閲覧証を持参すれば、協議会内の他の図書館の自由な閲覧が出来る制度を設けている。また、協議会内で逐次刊行物の分担保存を行い、購入・保存に要する労力や費用などを協力して分担できる態勢をとっている。

2005年度より私立大学図書館コンソーシアム（PULC）および、日本薬学図書館協議会（JPLA）に加盟した。洋雑誌の価格高騰に対処するため、国内外の出版社、学協会などとコンソーシアム契約の交渉をこれらの団体を通して行い、図書館にとって有利な購読条件を引き出し、安価に学術情報を手に入れるべく協力を行っている。JPLAでは、この他にも薬学関係の研究機関を持つ図書館が協力して薬学・図書館学の情報交換や問題解決を図っている。